震災遺構の評価検討シート(案)　　資料3－2

対象施設	旧女川交番

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・鉄筋コンクリート造の建物が津波で被災したというのは日本では初めての事例であり，また，大規模な津波で倒壊，転倒したという事例は世界的に見ても少ない。 ・小規模かつ単純な構造であることから，一見しただけで被災状況がわかるという点で，専門家はもちろん，広く一般にとっても貴重である。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・津波への恐怖感をまざまざ感じさせる物件であり残すことが，教訓になる。 ・建築学会において，津波に対しての構造設計法，特に浮力に対する構造基準が作られており，津波避難ビル等を今後どのように設計するかということについて，大きな教訓を与えてくれる。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・建築の構造技術者等の関係者にとっては，非常に貴重で関心の高いものである。歴史的にも価値が高い。 ・町内で同様に転倒した他の建物の被災状況や，被災前の状況も分かるように展示するなど，合わせて情報発信することで，発信力が一層高まる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	・交番での直接の犠牲者はないが，周辺，町全体では多くの人が犠牲になっている。そのような説明も加え，町の象徴的な遺構となれば，町全体の鎮魂の場になる可能性があり，外から来た人にとってもそのようになると考えられる。

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・鉄筋コンクリート造であるため，比較的保存がしやすい。
・周辺を公園として整備するとされているが，美しく残すことにきめ細かく配慮することで，保存する価値は高まると考えられる。
・メモリアル公園内に震災遺構として保存されることで，土地利用を阻害しないことや，情報発信に有効であるとの評価もできる。
・遺構を見るのは辛いという人もいるので，その心情にも配慮があると良い。

震災遺構の評価検討シート(案)

対象施設	JR仙石線野蒜駅プラットフォーム

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・線路が途切れている様子など，震災時にどのようなことが起きたのかを想像させる力，心の中に絵を描かせる力がある。 ・よく見るとあちらこちらに被災の痕跡が残っている。それが分かるようにパネル等で示していくことが大切である。 ・直線であるはずの線路が湾曲しており，津波の痕跡が残されている。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・人が集まる場所を海に近い平地に設置し被災したことは，今後，公共施設を設ける際の教訓になる。 ・駅舎の屋上に避難して助かったことは，今後の避難行動の教訓となる。 ・公共交通機関であってもこのような被害にあうということは教訓になる。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・駅の遺構は他にはないので希少性があり，遺構として価値がある。 ・東名駅での電車の被災や避難など鉄道施設特有の状況なども合わせて紹介することで，発信力がさらに高まると思われる。 ・旧駅舎内に周辺の被害状況も展示することで発信力が一層高まる。 ・駅東側にある東名運河が津波の力を弱めたと言われている。県でも運河群を復興の象徴と位置づけたビジョンを策定しているので，連携して広く発信していくことにより，発信力がさらに高まる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・プラットフォームだけでなく，線路や軌道なども一体としたゾーンとして捉えた方が，遺構としての価値が高まる。

震災遺構の評価検討シート(案)

対象施設	野蒜小学校

【重要度の評価】　　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・１階部分のサッシが壊れているところに痕跡が見られる。そのような弱いところが壊れて，主体的な構造が守られるという面がある。内部はトイレ等の設備関係が大きな被害を受けており，痕跡が残っている。外側からみると分かりにくい面があるが，内部には津波の破壊力の痕跡が残っている。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・野蒜小学校と浜市小学校は，海からの距離はほぼ同じだが，野蒜小は東名運河が津波を弱めた一方，浜市小は近くの川を遡上した津波が脇から来たということで危険度に差があり，両方を保存し比較することで地理的条件によって被災状況が変わるという教訓になる。 ・多くの児童や住民などが避難した中，助かった人もいる一方、体育館での犠牲者も出るなど，ポジティブな教訓とネガティブな教訓の両方がある。 ・避難所として一般的に認知されている学校が被害を受けたことは，教訓になる。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・遺構として保存されることに加え，地元の人やＮＰＯが教訓となり得るものを発信するなどの活用もされるのであれば，発信力がさらに高まる。 ・日本では学校が避難所として一般的に認知され機能しているという事実は発信力につながる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	・体育館では犠牲者も出ていて，その後は，遺体安置所にもなった。その体育館は既に解体されているが，津波の直接的な痕跡ということだけでなく，社会的な対応の部分についてゾーンとして残していくのであれば鎮魂につながる。

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・学校は大きな施設であり，どうやって残していくのか。経年劣化したときに市の重荷にならないか心配である。
・管理コストの面から，使えるものは使っていきたいと考えたものと思われる。被災前と同じ用途で活用するもの，用途を変えて活用するものがあり，それらをどう考えるか。また，他の再利用されている施設との違いが分かりにくい。
・校舎の一部を残して他の部分は活用するというケースであり，他の施設と比較して判断が難しい。
・震災遺構の要素を持つ記念館的なものにして，地域全体の被害を伝えるような活用も考えてほしい。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート(案)

対象施設	浜市小学校

【重要度の評価】　　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・１階部分のサッシが壊れているところに痕跡が見られる。そのような弱いところが壊れて，主体的な構造が守られるという面がある。内部はトイレ等の設備関係が大きな被害を受けており，痕跡が残っている。外側からみると分かりにくい面があるが，内部には津波の破壊力の痕跡が残っている。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・野蒜小学校と浜市小学校は，海からの距離はほぼ同じだが，野蒜小は東名運河が津波を弱めた一方，浜市小は近くの川を遡上した津波が脇から来たということで危険度に差があり，両方を保存し比較することで地理的条件によって被災状況が変わるという教訓になる。 ・1933年の昭和三陸地震の後に危険区域として県令が出されたが，また人が住み始めて学校ができてしまった地域であり，現物を残すことによって被害を伝えていくという警告としての教訓の意義がある。 ・避難した児童らが上階に避難して全員助かっており，ポジティブな教訓がある。 ・避難所として一般的に認知されている学校が被害を受けたことは，教訓になる。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・遺構として保存されることに加え，地元の人やＮＰＯが教訓となり得るものを発信するなどの活用もされるのであれば，発信力がさらに高まる。 ・日本では学校が避難所として一般的に認知され機能しているという事実は発信力につながる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・学校は大きな施設であり，どうやって残していくのか。経年劣化したときに市の重荷にならないか心配である。
・管理コストの面から，使えるものは使っていきたいと考えたものと思われる。被災前と同じ用途で活用するもの，用途を変えて活用するものがあり，それらをどう考えるか。また，他の再利用されている施設との違いが分かりにくい。
・校舎の一部を残して他の部分は活用するというケースであり，他の施設と比較して判断が難しい。
・震災遺構の要素を持つ記念館的なものにして，地域全体の被害を伝えるような活用も考えてほしい。
・地域で伝承していくのであれば，「宮城県北部地震」でも矢本地区は大きな被害があったので，この地域では津波被害だけでなく内陸型の震災もあるということを伝えてほしい。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート（案）

対象施設	門脇小学校

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・内部の焼損がかなり大きく，津波火災の痕跡を残す唯一の施設であり，津波火災の危険性を後世に伝える貴重な遺構となりうる。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・津波火災は，人為的な消火がほとんど不可能であるという教訓を伝える意味で，貴重である。 ・地形的に背後に山が迫っているため漂流物の逃げ場がなく，独特の被害があったことなども，今後，建物を建設する際の教訓であり，地形による被害パターンという点でも，今後の災害対策に資すると考えられる。 ・避難行動としては，本来，校舎ではなく裏の高台に逃げるべきであった。高台が近くにある場合は，建物ではなく高台に避難すべきという教訓が読み取れる。 ・校舎に避難したというのは避難行動としては不適切であり，保存するならばネガティブな教訓もしっかり残してほしい。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・津波火災の怖さが大きな発信力である。 ・流されてきた車から漏れたガソリンに引火して火災が起きており，焼け焦げた姿は非常に高い発信力があり，貴重である。 ・門脇小学校は歴史があり，石巻市民にとって象徴的な存在で思い入れがあることから，発信力は高い。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	・建物内での犠牲者はいないが，地区で亡くなった方も多く，地区の悲惨さを伝える貴重な遺構となりうる。その場合，残し方については，相当な配慮が必要になる。鎮魂については，もっと広い地域的な視点で突き詰めて考える必要がある。

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・大きな建物であり，どのように維持していくかが問題である。全体ではなく一部を残していくことも検討課題であると考える。
・外側からでは被害が分かりにくいが，施設内を公開しない場合は，どのように残していくのか多面的な議論が必要になる。
・被災当時を再現した映像の記録が残されており，そういうものも活用しながらどう残していくかを検討してほしい。
・周辺の区画整理事業における土地利用や景観などとの関係が難しい。
・保存することについて，住民の方々の不快感があると考えられるので，相当工夫した形で残す必要があると思われる。
・住民への配慮，グラウンドの活用の仕方も考える必要がある。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート（案）

対象施設	中浜小学校

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・海の近くに立地しており，被害の痕跡は大きく残っている。 ・平地では津波の引き波の破壊力が大きくなることが形で残されており，破壊力の痕跡があるといえる。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・平地における高層の建築物の有用性を示したといえるが，避難した際に孤立する可能性があることも考える必要があり，教訓となる。 ・事前に避難計画を作っていたことが，実際の避難行動に役立ったという点は教訓といえる。 ・屋上倉庫と避難階段がハザードマップから考慮されて造られたことは，平地における小学校のあり方について教訓になる。 （※ハザードマップを考慮して対策が講じられていたことを確認）
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・津波湾とセットにできれば津波の猛威を伝えることができ，付加価値となり得る。 ・県南には遺構はほとんどなく，県内最南端の遺構候補であり，貴重である。 ・屋上の倉庫等が想定に基づいて対策がとられていたのであれば，被災地以外での対策としても，全国に発信できる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・アクセスの面や，周辺の活用が未定であるため，周囲に何もない状況になりかねない。保存するのであれば，周辺の被災状況もあわせて伝える必要がある。
・周辺に何もなくなるので，津波避難ビルにすれば周辺を訪れる人のためのものになる。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート（案）

対象施設	気仙沼向洋高校

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・校舎の4階部分に非常に大きな漂流物が衝突した痕跡が，津波の破壊力を示している。 ・建物内部の損傷が非常に大きく，破壊力の痕跡を示している。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・（校外への避難については）津波情報を適確に判断しながら避難を行ったという点で参考になる。 ・屋上に逃げた46人については，4階建てでなければ危なかったと思われ，平地における避難ビルの有効性が出たといえる。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・想像を絶する津波の破壊力は発信力にもなるのではないか。また，車が建物の中まで入っているということについては，大きなインパクトがある。 ・県内最北端の遺構候補であり，最南端の中浜小学校とつなげることで面的な広がりを発信できる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・このような大きな施設を自治体が管理できるのか。維持管理費などなかなか難しいのではないか。
・全部ではなく，一定程度教訓を伝えられるだけの残し方が良いという考え方もある。施設内を公開するのかどうかなど，実際に保存したときにどれだけ発信力があるかも含め，地元でよく検討してほしい。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート（案）

対象施設	仙台市立荒浜小学校及び防災集団移転跡地集落内建物基礎

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・校舎が２階まで浸水したことと周辺の住宅の被害がセットで，破壊力の痕跡として意義がある。 ・浸水の痕跡のほか，１階の建具や外部の手すりにも痕跡が色濃く残されている。また，屋上から周辺の住宅基礎群が一望でき，津波の恐ろしさを感じ取ることができる。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・多くの人がここに避難して助かっており，平野で高台がない場所での中高層建築物の有効性が示された。 ・地域住民や学校が防災訓練をしていたことも教訓になる。 ・津波浸水深４ｍ以上では，一般的な木造住宅は倒壊の可能性が高いということがわかる。 ・学校と集落がセットで残った遺構はこれだけであり，住宅基礎群は津波がそこにあった生活や伝統も破壊することを知る上でも貴重。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・屋上から俯瞰したコンクリートの住宅基礎群についてはインパクトが強い。校舎と住宅基礎群の両方が相まって発信力が生まれるのではないか。 ・地区全体で遺構の整備について工夫することで，さらに発信力が高まる可能性がある。 ・交通のアクセスが良く，県外などからの多くの人に発信できる可能性がある。 ・他の学校の遺構との連携など，アクセスの面からも学校の遺構の拠点という価値も生まれるのではないか。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	・校舎自体での犠牲者はいないが，周辺では多くの方が犠牲になっていることから，それを象徴するような形で鎮魂のための場にもなり得る。

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・保存にあたっては，学校とともに歩んできた被災前の荒浜集落の歴史文化を知らせることや，津波が来たときの様子，なぜ多くの人が犠牲になったのかなどが分かるように工夫すべき。さらに，荒浜地区の住民の被災後の生活再建の軌跡についても，資料として公開してはどうか。
・大規模な集落遺構の管理，維持費については今後の大きな検討課題である。
・施設内を公開するためには，法的な課題について検討が必要である。
　→不特定多数の人間が出入りすることで，建築上の防火対策，消防法上の消防設備，避難経路の確保などが基本的に要求されると思われる。

震災遺構の評価検討シート（案）

対象施設	南三陸町防災対策庁舎

【重要度の評価】　※現地保存を前提として評価

意義			項目	評価の観点	評価意見
	②災害文化の伝承	③地域を越えたメッセージ性と次世代への継承	破壊力の痕跡	津波の破壊力を示す痕跡が残されているか	・内外装材がすべて流失し，鉄骨の骨組や階段だけが残された姿は，津波の破壊力を強く示している。また，柱や階段が折れ曲がっているのは，非常に衝撃的な印象を与える。
			教　訓	どのような教訓を導き出し得るか	・行政関係の施設の震災対策の重要性が明らかになった。 ・住民と職員の生命を守り，災害対応，危機管理を行っていくことの根本的なあり方についての教訓としては，非常に強い力がある。 ・住民の生命や財産を守ることを最優先にしつつ，職員の生命や財産も守る必要性についての教訓をこの遺構から感じ取ってもらいたい。 ・公共の建築物を建てる立地について熟慮させるという教訓がある。 ・建物の構造自体は残ったことで，屋上で助かった人もいたということは教訓になるのではないか。 ・遺族や住民の心情への配慮が十分に行われるべきであるが，減災や防災を伝える非常に貴重な財産として，未来の教育のためにも残すべき。
			発信力	発信力があるかまたはその可能性があるか	・既に東日本大震災を象徴する遺構と広く認知されており，今回の遺構候補の中では世界的に見ても最も知名度の高い遺構といえる。 ・「３．１１」について問いかけをしていく力が一番強く，発信力が非常に大きい。 ・原爆ドームにも劣らないインパクトと印象を与える遺構である。 ・建築的に見て非常にシンプルでコンパクトであり，モニュメントとしての性格を強く持っており，高い発信力を有する。 ・この遺構があるために何度も訪れる人も多く，震災の時に生まれた支援の絆を今後も続けていくきっかけになり得る。 ・防災対策庁舎を保存することは，東日本大震災を風化させないという意思の表れを発信できる。
①鎮魂			鎮　魂	鎮魂の場としての性格を有するかまたはその可能性があるか	・現在も鎮魂慰霊の場として非常に大きな役割を果たしている。多くの人が，庁舎の前に行くと自然に手を合わせるような心情になると思われる。 ・地元をはじめとして多くの人が献花に訪れており，当遺構，南三陸町，さらには東日本大震災の全ての犠牲者を追悼する場になっている。 ・遺族の中には，庁舎に繰り返しお参りに来る方もいると聞いており，追悼の拠り所として後世に伝えることが，その遺族の方々の心情に応える形になるのではないか。

★ 総合評価 ★

1	震災遺構として，ぜひ保存すべき	
2	震災遺構として保存する意義は認められる	
3	上記1,2以外のもの	

【意見】

その他

・時代とともに遺構に対する考えが変わるかもしれず，時間の要素も考えて例えば10年ごとに見直しというような時間軸も含めたシステムを考えて，解体されることのないように，禍根を残さないようにするべきだ。
・これまでの経過から町による保存が難しいようであれば，県などの第三者による保存も検討する必要があろう。
・例えば財団等，国，県も交付金を活用しながら残していくような議論をして，保存を検討する仕組みを検討することも考えられる。また，モラトリアムを置き，10年ごとに合意形成を図るというようなことをやっていかないと難しい状況にあると思う。
・南三陸町に負担をかけない形で，民間からのお金も含めて，我々国民全体で保存しようと気運が高まるような，原爆ドームのような遺構になればと考える。
・早急に判断を決めるのではなく，時間を置いて議論を継続し，大きな意思の表れとして保存について検討を行うべき。
・時間を置いて議論する場合は，町の苦労を長引かせることにならないよう，例えば県が節目において精査を行うというようなことも含めて，今後の時間を誰の責任において見守っていくのかということを，他の遺構は必要ないが，この遺構については考えていくべき。それだけ他の遺構と比較して特段に価値の高い，突出した遺構と言える。